

報 告 書

2019年 5 月31 日

望月 厚司様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2019年5月25日（土）12：30～17：30	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	第14回マニフェスト大賞キックオフ大会 愛知大学 名古屋キャンパス・グローバルコンベンション ホール
	(2) 対 応 者	主催：ローカルマニフェスト推進連盟 2019マニフェスト大賞実行委員会 共催：早稲田大学マニフェスト研究所 対象者：地方議員・議会事務局職員等
3 目 的	全国の優れた活動にスポットを当て、善政競争を目指す「マニフェスト大賞」。このキックオフ大会は、昨年度グランプリを受賞された犬山市議会をはじめ、各地の先進事例を見聞きし、新しい地方自治のあり方を学び、我が議会にどのように反映できるかなどを検討していきたいとの思いで参加している。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>第一部：住民意見をカタチにする～新し議会と住民の関係&先進議会の裏側～</p> <p>松本市議会 上条俊道議員 『若者×議会①～高校生が議会へ請願書・陳情書～』 「高校生や高齢者など交通弱者に配慮した公共交通の充実を求める請願書」「自転車利用者に優しい街づくりを求める請願書」が全会一致で可決された。提出者は高校生。これについて高校生は、自分たちの意見は無駄にならないと実感したとの事。シチズンシップ教育の大きな形と言える。</p> <p>可児市議会 松倉良典議会事務局 『議会改革の舞台裏』 市民の声・「定数・報酬を減らしてはどう」「議員なんていないんじゃない」「議会なんていないんじゃない」「何をしているかわからない」等何処の議会でも言われている事だ。そこで、アンケート調査を実施。そして、可児市議会地域課題懇談会を設置。議会の見える化をやっている</p>	

る。

田口悠斗 可児市議会高校生議会 元生徒会長 玄立命館大学3年
『議会×若者の可能性』

平成26年に高校生からの意見書「地域課題に若い世代が関わる機会を設ける事意見書」を提出。関わることで、地元のために何かしていこうという気持ちになったという。エンリッチ・プロジェクト（地域課題解決型キャリア教育）に参加し、自分たちに関係する課題があることも知り、又、魅力に気づくこともできた。彼の提言に、ドキリ。主権者は有権者と認識されがちだが、日本国憲法の前文で謳われている主権者は18歳未満の若者も主権者である。だから、18歳未満の若者にまちづくりに関わる機会を作ることが重要だ。と。

瀬野航太・伊藤早希 新城市若者議会・議長と副議長（第4期）

『若者議会が活躍出来るまち～世代のリレーができるまち～』

若者議会の提案で公共施設のリノベーションを次々と達成。それに、1000万円の予算処置。責任と権限を与えて、議論し決定する体験？をさせている。これらに関わってきた卒業生が、実際議員になっている。若者ばかりではなく、ママさん議会も。又、地域懇談会や、キャリア教育支援、模擬選挙等々、市民を意識した様々な企画が実施されている。

ビアンキ・アンソニー議員・前議長

『犬山市発・新しい民主主義への取り組み～市民フリースピーチ制度～』

前例より前進！議会には3つが必要だ。議員間討論・議会の政索立案と政策提言の力・市民参加。が口癖のビアンキ元議長。「市民の意見を議員で協議し、行政に対して適切な対応を求めたい」これができるシステムを創るように議会事務局にオーダー。議場で発言してもらうことに意義があると言い張り、喧々諤々の後、市民フリースピーチ制度が誕生。議場の意味を変え、議場は市民と議員の議論の広場であるとある大学教授から絶賛された。市民の発言制度はほかでもやっているという。長崎市小値賀町議会は、議員の一般質問に対して、傍聴席から質問できるという。又、名古屋市議会は、市民3分間スピーチがある。

第二部 地域課題に対する新しい切り口を学ぶ

古川 直季 自民党横浜市議会議員団団長

『市民の関心呼び込む 横浜自民党のマニフェストの取り組み』

政索条例提案を行う議会として有名な横浜議会。それを行っている自民党市議団。今年は、SDGsの17の項目の対応できるものを検討中。貧困をなくそう⇒ひとり親家庭の自立支援、子ども食堂。住み続けられるまちづくり⇒コミュニティバスの充実、用途地域の見直し、空き家対策等進められている。

福田健一郎 新日本有限監査法人

『人口減少時代の水道事業』

法改正もされ、コンセッション（民営化）方式や広域化が益々進むと説明。老朽化対策、人口減少、節水意識などなどで、水道をひねれば、水が出るという事を維持していく事はかなり困難になってきていて、試算によれば、90%の自治体で、36%の値上げがされていく、水道料金月20000円と言う自治体も出てくると予想しているとの事だ。

北川正恭 早稲田大学名誉教授

『総括 新時代の善政競争のあり方～多用性に満ちた地方自治とは～』
議会改革をやっていない議会議程、充分やっていると感じていて、やっている議会議程、もっとやらなければと感じている。苦言を呈した。又、議会として活動して成果が出たと言える議会はあるか？とも。中々厳しい。AI時代も来ている。議会も、議員も変わらなければならない。今日の善政を是非広げて頂きたい。

5 成果・市政への反映等

何時もながら、暑い中、熱い議論が交わされた。本当に、こうなればいいのと思うことをすでに実施している議会があることに驚く。新城市の若者議会に1000万円の予算配分している英断は素晴らしい。そして、若者議会から本物の議員が誕生した事は、人材養成の働きもしていたことになる。可児市も同じで、関わった学生さんが、進学先の選択や故郷で働きたい気持ちを醸成しているなど、若者の登用が功を奏していると言える。さて、静岡市も有権者教育・シチズンシップ教育をしている。前出の2市では、提案された事項が形になっているのだが、静岡市の高校生とのミーティングは、まとめてはあると思うが、政策へ反映までにはならなかったのだろうか？若者は「自分たちに関することは自分たちも含めて決めてほしい」と声を大にして言っている。ロジャー・ハートの「参加のはしご」と言う話が印象的だった。操り参画・お飾り参画・形だけの参画は非参加と位置付けている。若者を入れればいいみたいな参加のさせ方をしている事例は静岡市にもみられるのではないかと改善してほしい。高校生とのミーティングをもう少し改善し提言までできる指導をしていけないだろうか？主権者と有権者の話は成程と思った。有権者となり得る主権者が、まちづくりに参画する仕組み作りが必要なのではないだろうか。横浜市議会は条例づくりで有名になったが、条例を作るのも大切だが、条例を改廃することも大事なのではないかの声もあった。条例の効果はどうか、評価する仕組みも大事だという事だ。中小企業振興条例では、どの程度、市内に公共事業が流されていたかなど、具体的な検証を進めていける仕組みが必要なのではないかとの声があった。静岡市でも議員発議の条例を策定してはいるが、一番気にしているのが、議会改革基本条例のローリングが一度も行われていないことだ。検証の仕組みが作られているとは言えない状況。やはり、条例を良い良いものに進化させていくべきではないか。これもそれもだが、静岡市は、議員間議論・討論に馴染みがない。決まりきった市民との対話、パブリックコメントやタウンミーティングよりも、一度、市民フリースピーチをやってみたらどうだろうか？

市民の声を聴くチャンスは多い方が良いと私は思っている。

